



## 珍らしい小遊星 1937UB

(この頃の話題)

去る10月28日、ドイツ國ハイデルベルヒ天文臺の K. Reinmuth ラインム 1 ト氏は、下記の如く、“うを”座に就いて光度10級の一新小遊星を發見した。

10月28日 22時<sup>h</sup>27.6 赤經 1<sup>h</sup>34.2<sup>m</sup> 赤緯 +8°6'

寫眞原板上には只一線を引いてゐるばかりで、其の運動の位置角は 105°又は 285°としか分らず、順行か、逆行か、不明であるが、とにかく運動速度は毎時間21'にも上るものであつた。

光度10等の新小遊星といふだけでも近頃の珍物であるのに、速度が上記の如き大きさとあつては、學界の一センセーションたるを失はない。そこでこの報告をベルリンの中央局が受け取るや、否や諸所へ急報して、觀測の續行を促し、又、發見期日以前の寫眞板の検査をも獎勵した。其の結果、獨國ゾンネベルグ天文臺で26日と29日、ハイデルベルヒ天文臺で28日、米國ハ1ヴ1ド大學天文臺で25日等の觀測が發表されたので、直ちに軌道の計算が行はれ、下の如きものが公表された。

| 計 算 者          | Vick 氏       | Gondolatsch 氏 | Maxwell 氏   |
|----------------|--------------|---------------|-------------|
| 近日點通過 T        | 12月8.071日    | —             | 8.09320日    |
| 近日點引數 $\omega$ | 90°17.0      | 90°40'22."2   | 90°31'00."0 |
| 昇交點黃經 $\Omega$ | 35 03.0      | 35 11 55.7    | 35 02 17.7  |
| 軌道傾斜角 $i$      | 9 56.1       | 4 41 03.5     | 10 06 22.6  |
| 近日點距離 $q$      | 0.50675      | —             | 0.5049384   |
| 離 心 率 角 $\phi$ | —            | 28 19 50.3    | —           |
| 毎 日 運 動 $\mu$  | —            | 2420.68       | —           |
| 半長徑對數 $\log a$ | —            | 0.110713      | —           |
| 平均進度 M         | —            | 327°02'16."6  | —           |
| 元 期 E          | —            | 11月6.0        | —           |
| 出 版 物          | [R. I. 1666] | [R. I. 1676]  | [IAUC 700]  |

此等の軌道要素が相互に不揃ひなのは、計算に用ゐた観測の期間が極めて短かくて、皆これ等は10月25日から29日までの間に過ぎないためである。従つて今後の観測續行や、発見以前の寫眞板調査が益々必要なのである。

上に記した各氏の軌道要素を通じて、特に注目を惹くことは、軌道の大きさが、非常に小さくて、今までの最小軌道たりしエロス星よりも遙かに小さいこと、それに又、此の10月の末頃、我が地球に非常に接近したことである。ゴンドラチ氏の計算によれば、此の星は10月30日18時(萬國時)前後に、我が地球からの距離が0.0039單位、即ち僅々580,000 秆にまで接近したこととなる。此の580,000 秆といふのは、月の距離の1倍半に過ぎないもので、全く開闢以來の空前の近距離である。因みに、近年、他の天體が我が地球に接近した例としては

|        |     |        |   |              |
|--------|-----|--------|---|--------------|
| 1932年に | 小遊星 | Amor   | が | 16,000,000秆, |
| 1934年に | 〃   | Apollo | が | 10,500,000〃, |
| 1936年に | 〃   | Adonis | が | 2,400,000〃   |

といふレコードがあるばかり。又、かの有名な1770年のレキセル彗星でさへ、地球へ3,000,000秆前後まで近接しただけであつた。

故に、こんどの小遊星1937UBは、未だ軌道が確立しないとは言へ、とにかく軌道の小さいことと、地球接近のレコードを作つた點に於いて、實に珍しい話題を提供したと言つて良い。こんな例は、空前であるばかりでなく、又、或は絶後かも知れないと思はれる。

小遊星の搜索も、面倒な仕事であるが、しかし此んなのが見つかり、百年の疲勞も一ぺんに癒されるわけである。光度10級の新小遊星が今でも稀には見附かるといふことだけでも、小さいカメラを持つ観測者を勵ますこと多大である。(山本一清)

附記. この小遊星1937UBは、このほど、「ヘルメス(Hermes)」と命名された。(山本)

#### 〔第112頁より〕

彼等は其の出現する現象を凡て研究するに當り、自由に凡ゆる手段を講じ、其の機會を善用せん事が切望される。(中村覺譯)